

米 MMF 過去最高を更新、ドル離れ抑制を示唆 株式利食い資金や滞留資金の余資残存、米日株やドル下支え

(株) ジャパンエコノミックパルス
Japan Economic Pulse Co., Ltd.
info@j-pulse.co.jp

2026/9/9 (水)

米国では安全資産である短期流動性資産・MMF (マネー・マーケット・ファンド) について、改めて過去最高を更新してきた。現預金と異なり証券市場の枠内にある資金のため、AI 株を始めとした高値利食い資金の滞留増加や、株価下落時の押し目待ち資金の増加、各種不透明感や米国株の高値警戒、米国債価格の下落 (金利は上昇) 懸念などによる退避資金の増加などが示唆されている。余剰資金の残存は米日株の下支え要因となるほか、金利面・信認面での短期ドル資産の需要持続と、ドル離れの抑制が示唆されている。

米 MMF 増、株高・投資利益増・マネー増示唆

「経済を巡る様々なデータの中で、米株市場にとって最も重要なのは、個人の口座に資金が積み上がっていることだ。株式投資等の待機資金とも見なされる MMF の残高は、高水準で推移している」、「(こうした資金は) 株式投資だけに使われるものではないが、デイトレーダーなどの投資家に何らかの弾薬があることは確かだ」、「世界的な景気減速懸念やボラティリティー (市場変動率) 上昇の中で、米国の多くの投資家が MMF に資金を避難させている。投資家の『しばしの隠れ家』になっている」――。

過去に米国内で MMF 残高が積み上がった局面で、ブルームバーグなどからこのような解説がなされてきた。

MMF はコマーシャルペーパーや短期国債、譲渡性預金など流動性が高く、価格変動リスクが低い資産で運用される安全な金融商品となっている (短期資金投資信託)。

最新 9 月 2 日週の米投資信託協会 (ICI) によるデータでは、米 MMF の総資産残高が 7 兆 9794 億ドルと前週比 +448 億ドルの増加になった。5 週連続の増加であり、これまでの最高であった 7 月 1 日週の 7 兆 9478 億ドルを上回る過去最高を更新している。

現金や預金ではなく、「証券市場の枠内」にある MMF の残高増加については以下のような背景が想起される。潜在的な米国株や日本株の下支え要因として注目されるほか、為替相場では金利面・信認面での短期ドル資産の需要持続と、ドル離れの抑制が示唆され、ドルの下支え材料となるものだ。

■ 米国株市場での AI 関連株を始めとした株高局面での利食い資金の増加と、一時的な MMF への資金滞留の増加＝株高による信用創造とマネーの創出拡大を示唆。投資利益の増大と余裕 (余剰) 資金の増加は、米国株が調整下落となった場合の再投資資

金となる。一部の余裕資金は日本株などの世界株にも配分されることで、日本株を下支えする。

■ 米国株に投資したくても、高値警戒感等で買い付けが先送りされている投資予備軍的なマネーの増加＝米国株や日本株の下落局面では、押し目買いに出動の余地。

■ 現在の米国市場における FRB 金融政策・中東情勢・中間選挙など「各種不透明感」や、米国株の高値過熱感、米国債価格の下落 (金利は上昇) リスクなどを警戒した退避マネーや投資待機マネーの増加＝先行き米日株や米国債などに資金がシフトされる潜在余地。

■ 米国株市場における投資家の IT・AI 活用等を含めたリスク管理の自動化・ルール厳格化や、機動的な利益確保・損失確定などの広がり＝損失・債務拡大の深刻化等によるキャッシュ化を制御。証券市場全体での投資資金の縮減を抑制。

米 MMF 前年比や 6 カ月前比プラス、ドル安抑制

現在の米国での MMF 積み上がりに関しては、AI 株を始めとした株高による信用創造とマネーの創出拡大も影響している。こうした余剰資金の増加や流動性の拡大は、一部が日本株などの世界株にも分散投資されやすい。

最近では昨年 4 月から今年 5 月にかけて、米 MMF の増加に連動して外国人投資家による日本株の買い越しが増加。日本株市場では、日経平均株価の上昇が同時観測されていた。

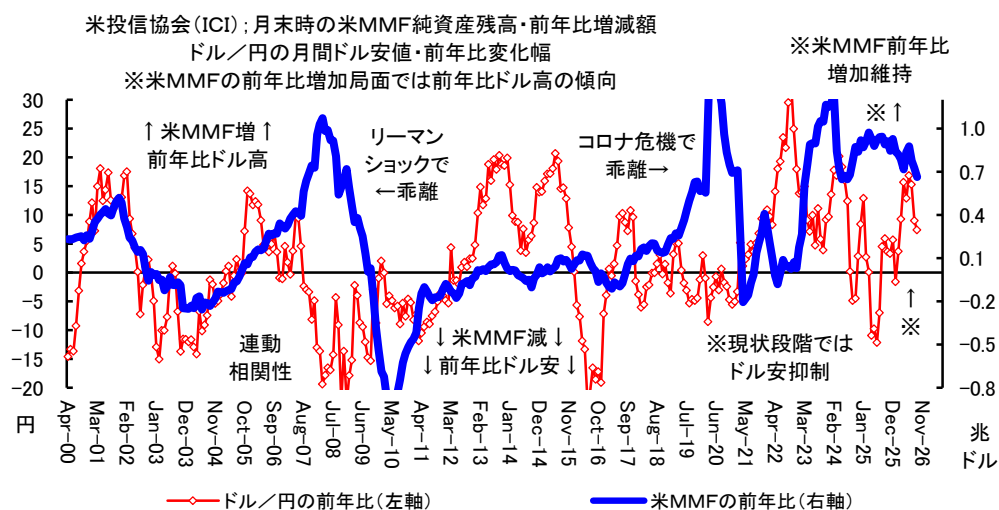
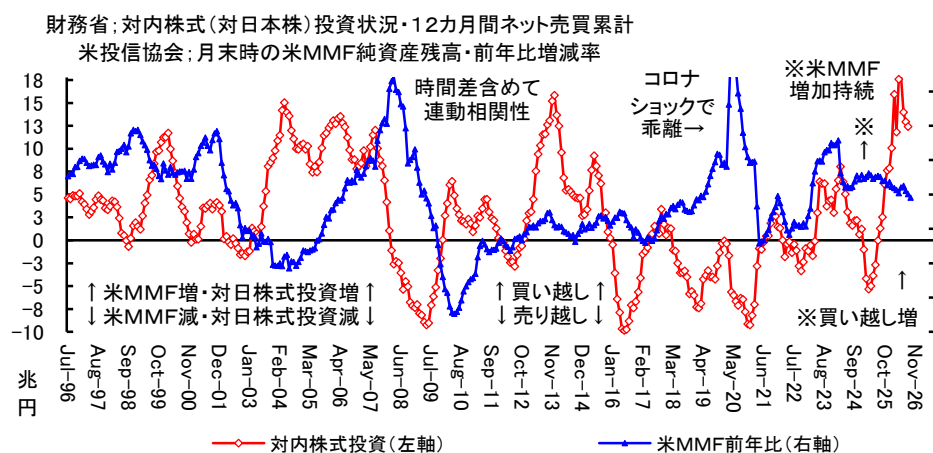
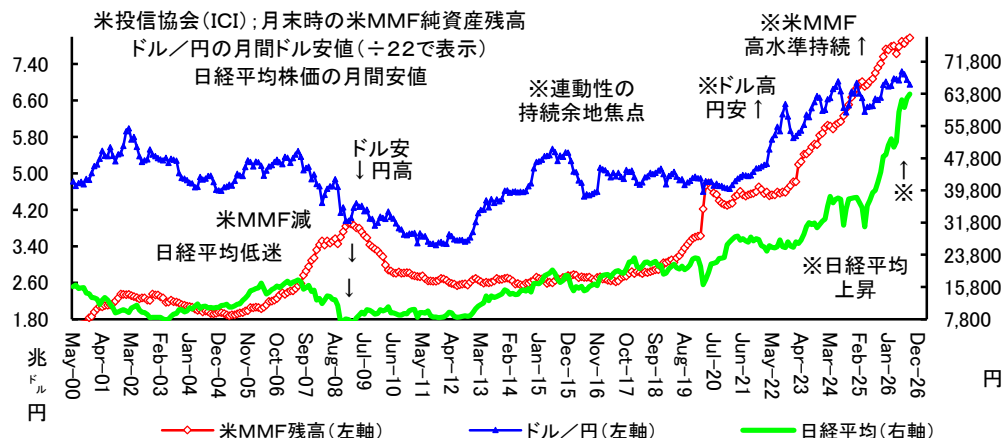
米 MMF の増加局面では、米国内外の投資家によるドル資産の一定需要や、MMF といった短期ドル資産での金利面での高め魅力が反映のケースがあり、為替相場でのドル/円はドル安抑制やドル高につながりやすい。直近の米 MMF は 9 月 2 日週時点で、前年同月比の増減額が +6647 億ドルとプラス化になっている。2022 年 6 月以降は、前年比プラスの基調が維持された状態だ。

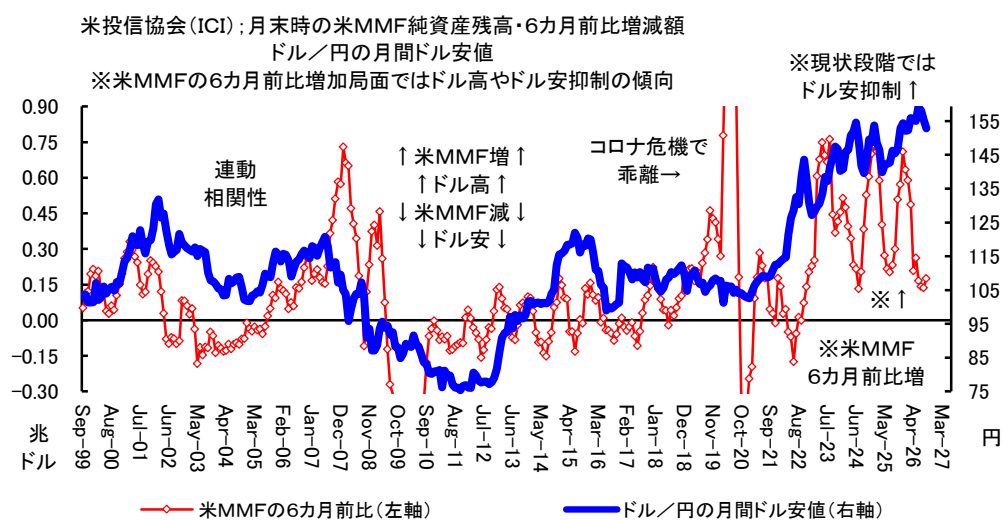
ドル/円との関係でいえば、月間ドル安値について短期的なドル下振れ局面はあっても、基本的に「前年比ドル高」の基調が連動でサポートされやすい。足元 9 月からのドル/円はドル安・円高が急加速され、9 月 8 日のアジア市場段階では 152.89 円前後までのドル安場面があった (ブルームバーグのレートを参考)。それでも昨年 9 月の月間ドル安値 145.49 円を上回る前年比ドル高は維持されている。

年後半にかけての月間ドル安値の参考メドになる 1 年前の月間ドル安値は、昨年 10 月が 146.59 円、11 月が 152.82 円、12 月が 154.35 円となっていた。

米 MMF は最新 9 月時点で、「6 カ月前比」増減額も +1761 億ドルとプラス化になっている。2022 年 10 月以降はプラス基調が維持され、ドル/円は連動で基本的なドル高基調が続いている。過去の長期実績として、米 MMF の 6 カ月前比でマイナス局面が目立つようになると、ドル/円はドル安トレンド入りが明確化されてきた。現状段階で米 MMF 残高は過去最高水準を保っており、まだ明確なドル安基調入りの転換シグナルは見られていない。

先行き米 MMF は、FRB による利上げ余地が高止まり持続の要因となる。MMF は短期の証券・国債でも運用されるため、政策金利 FF（翌日物）の切り上がりや、FF と連動性・相関性の高い米 2 年債金利が上昇となる場合、連動で米 MMF は増加となる関連実績が見られてきた。先行き米 MMF は高止まり持続の可能性がある、日本株市場での日経平均やドル/円でのドルについても、連動での高め推移が注目されそうだ。





お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。